

## 体育科学習指導案

指導者 久保寺 千広

1. 日 時 2000年11月3日(金)文化の日 11時30分～12時00分

2. 単元名 ゲーム「ティーボール」

### 3. 単元目標

- 攻守を交替し、投げる、打つ、捕るなどをしながら、簡単な技能を身につけて、ゲームが楽しくできるようにする。
- 規則を守り、互いに協力してゲームを行い、勝敗を素直に認められるようにする。
- チームの課題を持ち、簡単なゲームを工夫することができるようにする。

### 4. 単元について

ティーボールとは、1988年にアメリカの国際野球連盟と国際ソフトボール連盟が協力して、野球やソフトボールの入門期の子どもたちのために考案されたニュースポーツである。日本では、1993年に日本ティーボール協会が設立された。

一言で言うと、ピッチャーがいない野球である。ゲームは、ピッチャーが投げたボールではなく、バッティングティーの上に乗せたボールを打ってから始める。いつでも、どこでも、誰でも、老若男女が楽しめるレクリエーションスポーツとして広がっている。

野球やソフトボールの楽しさは、やはり「打つ」ことが一番だろう。ティーボールは止まっているボールを打つゲームなので野球型スポーツの醍醐味であるバッティングに集中できる。しかも、ゲームがスピーディーに進行するという利点もある。

新学習指導要領では、3・4年生のベースボール型ゲームに「止まっているボールを打ったりするゲーム」として例示された。また、5・6年生のソフトボールの中でも「導入のゲーム」として副読本に登場している。

これまでのベースボール型ゲームには、「一人ひとりの運動量を確保するのが難しい」とか「野球を知らない子(教師)にとって、ルールを覚える(教える)のがたいへん」などの課題があった。

そこで、第1次はベースボールを何も知らない子も楽しめるような単純なルールで導入することとした。第2次、第3次では子どもたちの発想や工夫も取り入れ、少しずつルールを難しくしていく展開にした。

また、指導のステップについては、「習熟過程表」を作成し次ページに示した。それぞれの個人差に合った上達の仕方、楽しみ方が保障されるよう心して指導にあたりたい。本時は、打つことにめあてをしぼる。

ティーボールの醍醐味であるバッティングの楽しさを十分に味わわせたい。

つまずきとしては、「ティーを打ってしまう」「打球があまり飛ばない」などが考え

られる。発問や模範、個別指導などを通して、短い時間の中でもバッティングの上達が見られるようにしたい。

バッティングのレベルアップによって、ゲームが一層楽しくなるよう期待している。

### ティーボールの習熟過程（個人技能）

	バッティング（打つ）	投げる	捕る
の テ イ ー ボ ー ル 技 能	(3) 投手の投げたボールを打つ。 (2) 味方のトスしたボールを打つ。 (1) バッティングティーの上に乗せたボールを打つ。	(3) 走り（歩き）ながらの送球。 （ランニングスロー） (2) 内野から内野への送球。 （コントロール重視型） (1) 外野からの送球。（遠投型）	(3) グロの捕球。 (2) フライの捕球。 (1) ライナーの捕球。
基 礎 技 能	(3) トスしてもらったボールを打つ。（顔を動かさない） (2) 自分でトスして打つ。 （当たる瞬間まで、ボールから目を離さない） (1) ティーにボールをのせて打つ。 ⑤ボールを押し出すように打つ。 ④足は肩幅に開き、やや内股にする。 ③1歩後ろへ（キャッチャーの方に）下がる。 ②内側に雑巾をしぼるように、バットをにぎる。 ①バッティングティーをへその高さに合わせる。	(7) 空中で捕球し、着地しながら投げる。 (6) 捕ったら、素早く投げる。 (5) キャッチボールをしながら、だんだん離れていく。 (4) 相手の胸に、正確に投げる。 (3) 横向きの体勢から、腰の回転を使って投げる。 (2) 肘を高く上げ、腕の回転を大きくして投げる。 (1) 投げる足と反対の足を、1歩踏み込む。	(4) バウンドしたボールの、落ちるところを捕る。 (3) グロが転がってくる正面に立ち、腰を落として捕る。 (2) フライは、おでこから右肩（右ききの場合）のあたりで捕る。 (1)・素手での捕球 （両手でしっかりつかむ） ・グローブ使用 （グローブでしっかりつかみ反対の手をかぶせる）
基 礎 感 覚	(2) バットを振る感覚 ・バトミントン・はねつき・風船やビーチボールでのバレーボール (1) バットをにぎる感覚 ・鉄棒・のぼり棒・ろくぼく ・うんてい・ジャングルジム ・雑巾しぼり	(2) 正確に投げる感覚 ・的当て・玉入れ・ドッジボール・フリスビー・紙鉄砲 (1) 強い球を投げる感覚 ・壁当て・ドッジボール ・フリスビー・紙鉄砲	(2) 転がるボールを捕る感覚 ・壁当て・遠くへ転がし走って捕る ・投げっこ（ゴロバウンド、前進して） (1) 落とさずに捕る感覚 ・ドッジボール・はねつき・バトミントン・高く投げ上げて捕る（回って、手を叩いて、背中で、高い位置で床に手をつけてから、ジャンプをして） ・投げっこ（捕りやすい球、フライ、前進して、下がって）

### 5. 指導計画（7時間）

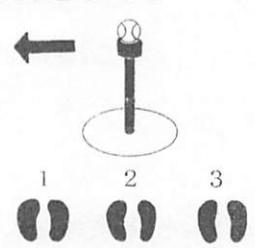

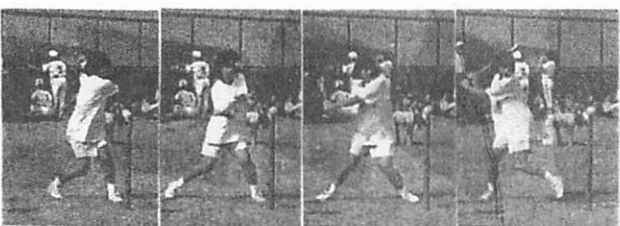

- ・第1次 「1塁で1点」ゲーム（3時間 本時1/3）
- ・第2次 「ワンバウンドでもアウト」ゲーム（2時間）
- ・第3次 ルールを工夫したゲーム（2時間）

### 6. 本時の指導

#### (1) 目標

- バッティングの練習を通して、思い切りバットを振って強い打球を飛ばすことができるようになる。
- バッティング練習の成果をゲームの中に生かし、楽しむことができる。

(2) 展開

学習のねらいと活動	指導上の留意点
<p>1. バッティングの練習をする。</p> <p>①どこに立って打つと打球がよく飛ぶのかを考える。</p>  <p>②フリーバッティングをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人3球程度。3打目が納得のいかない場合は、もう1打。</li> </ul>  <p>③バッティングの基本を知る。</p>  <p>2. ゲームをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・打球を捕球した守備者がホームベースを踏むまでに、打者が到達した塁の数を得点とする。(1塁ベースを踏んだら1点、2塁まで行ったら2点、3塁で3点、ホームランなら4点)</li> <li>・ランナーは残らない。</li> <li>・打者一巡で、チェンジとする。</li> </ul> </div> <p>3. 今日の学習を、まとめる。</p>	<p>(発問) 打つときにどこに立つでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ティーの前</li> <li>2. ティー横</li> <li>③. ティーの後ろ</li> </ol> <p>(ティーを打ってしまう子への指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ティーはへその高さに合わせる。</li> <li>・1歩後ろに(本塁手の方に)下がる。</li> <li>・当たる瞬間までボールを見る。</li> </ul> <p>(バットの振りが鈍い子への指示)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利き腕を上にして、両手をつける。</li> <li>・傘を差すように、バットを持つ。</li> <li>・トンカチで叩くように打つ。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ティーは、へその高さに合わせる。</li> <li>②内側に雑巾を絞るようにバットを握る。</li> <li>③1歩後ろに(本塁手の方に)下がる。</li> <li>④足を肩幅に開き、やや内股にする。</li> <li>⑤ボールを押し出すように打つ。</li> </ol>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・攻撃側チームには、味方がベースを踏むときに、「1」「2」「3」・・・と声を出させる。</li> <li>・本塁手がホームベースを踏むときには、「ストップ」と声を出させる。</li> </ul>